

【担当者名】神田直樹 [kanda@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

高度実践看護師が医師と協働して医療を提供している臨床現場において、慢性病者の生活の質を重視する観点から、基本的な医学的評価・判断に基づく、薬物療法や医療処置の管理について、実践をとおして学ぶ。

【学修目標】

1. 慢性病者の訴えや症状から臨床推論に基づくヘルスアセスメントを実施し、結果を説明できる。
2. ヘルスアセスメントに基づき、更なる医学的評価や検査の必要があるかを判断、説明できる。
3. 慢性病者・家族の生活の質を考慮しながら、薬物療法をはじめとする療養法の選択や実施を支援できる。
4. 慢性病者に求められる医療処置の管理を安全に実施できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	実習課題1 臨床推論に基づくヘルスアセスメントの実施	1) 共感的・理解的・支持的態度により慢性病者との良好な関係を構築する 2) 慢性病者の訴えや症状から臨床推論に基づくヘルスアセスメントを実施する。	神田
	実習課題2 更なる医学的評価や検査の必要性の判断	1) ヘルスアセスメントの結果から、更なる医学的評価や検査が必要かを判断する。 2) ヘルスアセスメントの結果や臨床判断プロセスを、担当医に的確に説明できる。	神田
	実習課題3 QOLを考慮した、療養法の選択や実施に関する支援	1)慢性病者の家庭生活、社会生活について把握する。 2)QOLを考慮した薬物療法をはじめとする療養法を慢性病者に提案し適切に実施できるよう支援する。	神田
	実習課題4 医療処置の安全・適切な管理	1)プロトコルに沿って医療処置を安全に実施できる方法を見学やシミュレーションにより学習する。 2)医療処置を安全、適切に実施する。	神田
	【実習方法】	高度実践看護師の指導の下、特定健診や外来診療など慢性疾患予備軍や慢性病者のヘルスアセスメントを行い、更なる医学的評価や検査の必要性を検討、療養法の選択や実施に関する支援を提供する。	
	【実習場所】	学生のサブスペシャリティ領域を考慮した上で、適切な場所を学生と相談し、決定する。実習場所は、NPやCNS資格を有する高度実践看護師が医師と協働して活動している、外来、在宅診療、訪問看護などの場を実習場所として準備する。	
	【実習期間】	4～5週間。但し、課題達成状況により延長する。集中実習か分散実習かは、学生の実習課題や学習状況により相談・決定する。	

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習準備状況20%、実習評価表50%、実習レポート30%

【教科書】

実習要項参照のこと。

【参考書】

随時提示する。

【学修の準備】

高度実践看護師の役割を担う上での自己の課題を明確して実習に臨むこと。